
Marita G. Schmitz
被害者であること
から外
創造的な力に
私の人生の
助けを借りて自己修復する
宇宙とアファメーション

Marita G. Schmitz

被害者であることから

外

創造的な力に

私の人生の

助けを借りて自己修復する

宇宙とアファメーション

もう一度自分の人生の創造者になろう！

「子供の頃に失った自己愛を見つけよう」

あなたは途中で彼女を見失いました、
なぜなら、あなたは承認と評価のために戦っただけだからです。

もしあなたが私の本に出会ったのなら、親愛なる宇宙はこう望んでいます。
それを読んで、自分に働きかけてください。偶然は存在しないからです。

I.

トラウマや臨死体験を含む、認識と感謝を求める私の闘い

II.

アファメーションと上からの助けによる自己治癒 ⸗

アファメーションや信念とは何ですか?

どこで入手できますか?

どのように使用すればよいですか?

III.

ナルシシズムと操作

他人に傷つけられると、依存してしまい、自分自身を責めてしまうこともあります。

IV.

線維筋痛症と更年期障害

そして同時に私には頑固な子供がいました

V.

家族内での競争

誰もが最速、最高、最も人気者になりたいだけでなく、最も病気になりたいとも思っていました (信じられないでしょう?!)。

すべてにおいて、誰もが親の前に立って、少しでも認められたり、賞賛されたり、感謝されたりしたいと思っていました。

VI.

学習課題 – 手放す

被害者であることから抜け出し、再び自分の人生の創造者となり、宇宙とアファメーションの助けを借りて自分を癒します。

もう一度自分の人生の創造者になろう！

私はアファメーションが機能する最良の例です。

私の知識と経験を皆さんと共有したいと思います。

それは私が初めてリハビリクリニックを訪れたときから始まりました...

いいえ、そこから始まったわけではありません...

それから私はついに自分自身、自分の人生、そして自分が経験したことについて考え始めました...

...そして私に与えられたヒントについて考えてみました...

...私の多くの痛みと運動障害のせいで、その中には医師にも説明できないものもありました。そして何より

も、心理学者が、私はパフォーマンスで自分を定義し、時には「ノー」と言うことが許されていると言ったからです。

認められるための闘いは私にトラウマをもたらしましたが、そのうちの 1 つは臨死体験としてずっと後になって初めて認識されました。

I.

トラウマや臨死体験を含む、認識と感謝を求める私の闘い

私は愛も共感も持たず、ナルシストな家族の中で 3 人の兄弟を持つ都会の子供として育ちました。

アレルギーについては子供の頃から知っていました。

私はまだ幸せで、音楽的で、スポーティーで明るい子供でした。

オフィスで研修を行いました。

私も常に好奇心を持っていて、すべてを説明してもらいました。

後で自分で内容を読んでみました。

何事にも全力を尽くしました。私は非常に才能があったのですが、兄弟たちから嫉妬を受けるだけで、当然ながらそれが私の成長を遅らせました。私はつい最近まで、オフィスで働くことが私のライフワークであり、一生やり続ける、あるいは天職であるとさえ思っていました。

しかし、私はただ疲れ果てて、ある時点で倒れるまで、認められ、評価されるために戦ったのです。

何よりも、ほとんどが臨時雇用契約のチャンスしかありませんでした。

かつて私は永久雇用契約を結んでいましたが、3年後に突然会社は他の人に売却され、スタッフは大幅に削減されました。そして、最近この会社で働き始めた人たちは、退職金と解雇協定を結んで釈放されました。確かに、私もその一人でした。

ある職場では3年契約だったのですが、1年目で契約を延長できないと言われました。この問題は、彼らまたは私たちが誤って公務員席に座ったために、社内の数人の従業員にさえ影響を及ぼしました。したがって、彼らは最初から私たちを雇うべきではありませんでした。

しかし今度は、彼らは私たちに、自分たちが間違いを犯したこと、そして私たちが時間内に他の場所に申請する準備ができることを知らせ、中間証明書を要求するように求めてきました。

その後、同僚が訴訟を起こし、永久雇用契約まで得た。それを聞いて私も弁護士に相談に行きました。その後、彼は私に代わって訴訟を起こしました。私は希望に満ちていましたが、仕事中は本当に疲れ果てていました。確かに、私は思いました

繰り返しますが、私が最善を尽くしれば、なんとか残れるでしょう...

それから私は風邪をひいたように感じ、片方の頬が大きくなり、その上の目が小さくなったので、隙間風が入ったのではないかと思いました。

しかし、風邪ではなかったし、顔の腫れも引く気配はありませんでした。

それで私はそれを持って医者に行きました。その後、顔面麻痺であることが判明したため、念のためMRI検査を行った。

私にとっても医師にとってもこれは説明がつきませんでした。したがって、MRI が必要になりました。

しかし何も見つかりませんでした。

今となっては、それがストレスだったのと、仕事を守るために一生懸命働いたからだと分かりました。

その後、医師は神経再生のための薬と鍼治療をしてくれました。しばらく時間がかかりましたが、数週間後には仕事に戻ることができました。投薬はまだ続けられる。

約1年後、私は他の仕事に何度か応募しましたが、何度も不採用となりました。私にはまだ新しい仕事の目処が立っていませんでした。

突然、私は数回連続で発熱性の感染症にかかりました。時には風邪、時には胃腸炎になり、そのたびに高熱が出ました。

それから片方の腕がもう上がらなくなりました - 私は医者に戻りました。それから上腕と肩に注射を受けました。

本当に疲れていたので、しばらく休まなければなりませんでした。

そして、次の診察のときに、かかりつけ医が血液サンプルを検査室に送ってくれました。ここでEBVエプスタイン・バーウイルスまたはファイファー腺熱と診断され、当初は無期限の病気休暇をとられました。

その間、私は階段を上がるのがやっとで、横になることが多く、ちょっとした家事でも疲れ果ててしまいました。

5か月後、ようやく体調が戻りました。

職場に戻ってみると、すでに定員が埋まっていたため、ここ数か月間、別の職場に異動することになりました。

そこでの仕事も楽しかったですが、臨時契約が切れた直後に、故郷でのいくつかのポジションにすでに応募していました。

私の最後の仕事でいくつかのことが起こりました。ここでも、私は一時的な契約を結んでいました。今回は、雇用主の育児休暇期間中です。そしてもちろん、私はここでも必要以上に努力しました。なぜなら、私の目標はやはり最終的に再び永久契約を獲得することであったからです。ひょっとして、その職に就いた人は

もう戻ってこないのかもしれない、と私は思いました。

週末に突然めまいと激しい吐き気がして腕が上がらなくなったので病院に行って検査してもらいました。

その後、高血圧と診断されました。当時私はまだ30歳の若さでした。

医師はその理由を調べた。そして、器質的に診断できるものは何もなかったため、彼は私が高血圧症だった両親から単に遺伝しただけだと考えました。

薬を調整するために1週間入院しなければなりませんでした。

今では、高血圧は自分自身にプレッシャーをかけたり、外部からのプレッシャーに任せたりしたために引き起こされただけだと知りました。

時々、息ができなくなり、顔が赤くなり、過呼吸になり、職場の同僚が私を医者に連れて行ってくれたこともありました。しかし、医師は再び高血圧と診断しました。彼らは、それはただの高血圧だ、リラックスすれば大丈夫だと言いました。

2〜3年前から定期的に血圧の薬を服用していました。

繰り返しますが、これについては誰も説明していませんでした。

しかし今では、これらはすべて軽度の喘息発作だったに違いないとわかっています。

しかし、実際には、25 時間のみのポジションへの異動に同意したため、雇用契約を 1 年間延長してもらうことができました。

残念ながら、その仕事をしていた人が戻ってくるため、1 年以上この仕事に留まることはできないことが再び明らかになり、私はまた夢中になって働きました。

それ以来、私は軽度および重度のインフルエンザのような感染症を何度も経験しました。

特にここ数年は病気や疲労で欠勤が多く、時には息切れや高血圧を伴うこともあったので、たくさんのことを考えたり心配したりしました。

それでも契約延長、あるいは無期限契約を獲得できるでしょうか?しかし、現職者が退職する社内のポジションはもう補充されなかったため、この見通しは特に良好ではありませんでした。そして彼らは研修生だけを受け入れたいと言われました。それで彼らはそれが目標だと言いました。

しかし、社内の別の仕事で契約が延長されるという希望が再び得られた後、上司が何度かこの仕事で働きた